

事務事業マネジメントシート(平成26年度実績と平成27年度計画)

平成28年 2月19日 更新

事務事業名		春ウォーキング大会開催事業						☐ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連		
総合計画体系	政策	4	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり				所属部	教育委員会事務局教育部	課長名	辻 健一
	施策	22	生涯スポーツの推進				所属課	生涯学習課	担当者名	毛利 一生
	基本事業	71	スポーツへの参加機会の提供				所属班	スポーツ振興班	(内線)	1519
予算科目		会計一般	款10	項6	目1	事業連番10800	法令根拠	スポーツ基本法		成果優先度評価結果
										コスト削減優先度評価結果
終了、開始年度		☒ 26年度で終了 ☐ 26年度から開始					事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 18 年度) ☐ 期間限定複数年度 (~ 年度)		

★事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

【事業の内容】 (開始した背景・きっかけ・今後の状況変化を含む)	・約6kmのコースを自然や文化財に触れながら、2時間ほどかけて散策する。近年健康ブームにより、ウォーキングについての関心が高まってきた。合志市でも歩くことの大切さ、交流することの楽しさを広めたいという理由で春ウォーキングを開催した。旧合志町・旧西合志町住民の交流を行えるように旧町間を交互にコース設定している。また、ゲーム的要素を取り入れたウォークラリー形式も取り入れている。
【業務の流れ】	・コースの設定→資料作成→スポーツ推進委員実施会議→参加者募集→救護員・参加賞・1日保険等準備→試歩→大会→後片付け→大会反省。
【主な予算費目】	・報償費 ・消耗品費 ・役務費 ・使用料及び賃借料
【意見や要望】 関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?	・ウォーキングに参加することで、参加者同士の交流があった。 また、スポーツを始めるきっかけになった、楽しかったので来年も参加したい、等の声が寄せられた。

1 現状把握の部(DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分
①手段(主な活動) 26年度実績(26年度に行った主な活動)(DO) 平成26年度は、ヴィーブルから竹迫周辺のコース約6kmで実施し、197人の参加があった。(3月実施)		27年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN) ・隔年でコースを変更しており、竹迫および御代志周辺のコースでウォークラリーを開催する。平成27年度は、御代志周辺のコースを予定。
①活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由
→		・大会参加賞購入費、スポーツ傷害保険料の増
②対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等		②対象指標(対象の大きさを表す指標)
・市民		→
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		③成果指標(意図の達成度を表す指標)
・歩くことによりスポーツを始めるきっかけとなり、参加者同士の交流がある。		→
*③成果指標設定の理由と27年度目標値設定の根拠		総トータルコスト 全体計画 ～ 年度
・より多くの市民がスポーツを始めるきっかけとなってもらうため。		0

(2) 各指標・総事業費の推移		単位	24年度 実績(決算)	25年度 実績(決算)	26年度 目標(当初予算)	26年度 実績(決算)	27年度 目標(当初予算)	28年度 予定	29年度 見込	30年度 見込	
① 活動指標		アイ									
② 対象指標		アイ人	57,206	58,237	58,785	59,067	0	0	0	0	
③ 成果指標		アイ人	161	215	200	197	0	0	0	0	
投資 入費 量	事業 内訳	国庫支出金	千円								
		都道府県支出金	千円								
		地方債	千円								
		その他	千円		60	60	132				
		繰入金	千円								
	(A) 事業費計	一般財源	千円	83	39	90	17				
		(A) 事業費計	千円	83	99	150	149	0	0	0	0
		(A)のうち指定経費	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
	人件 費	(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
		正規職員従事人数	人	4	5	4	0	0	0	0	0
		延べ業務時間	時間	98	223	93	0	0	0	0	0
	(B) 人件費計		千円	0	888	370	0	0	0	0	0
トータルコスト(A)+(B)		千円	83	987	520	149	0	0	0	0	

事務事業名	春ウォーキング大会開催事業	所属部	教育委員会事務局教育部	所属課	生涯学習課
-------	---------------	-----	-------------	-----	-------

2 評価の部（SEE）

*原則は26年度的事後評価、ただし複数年度事業は26年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①26年度目標達成度評価 事務事業の当年度実績は当年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？	☒ 達成した ☐ 達成しなかった ⇒【原因】
	②27年度目標達成見込み 事務事業の次年度目標値に対して次年度の見込みはついているのか？	☒ 目標達成見込みあり⇒【理由】 ☐ 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 固定した参加者もあり、年々参加者は増加傾向にある。 ※平成27年度からは他事業と統合の上、実施予定。
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになってないか？	☒ 向上余地がある ⇒【理由】 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】 コース設定等に趣向を凝らせば参加意欲も上がり、参加者数の向上も期待できる。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☒ 他に手段がある（具体的な手段、事務事業） ☐ 他に手段がない ⇒【理由】 ☒ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 平成27年度からは、類似した他事業と統合する。
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？（仕様や工法の適正化、住民の協力など）	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 ・大会運営謝礼の削減・大会賞品のごみ袋等配布による参加賞の削減等を行っており、削減の余地は無い。 また、過度の参加賞の削減を行うと、大会参加意欲を損ねることにつながるため、削減の余地は無い。
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？（アウトソーシングなど）	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 担当職員およびスポーツ推進委員等、最小限の人数で対応している。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 参加者の制限はなく公平・公正である。
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化 事業事務のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行できないか？	☒ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☐ 役割分担は適正である ⇒【理由】 ・市が運営するのではなく、合志市歩こう会や合志市体育協会へ移行する方法および総合型地域スポーツクラブがイベントとして実施する方法もある。

3 評価結果の総括（SEE） ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

・一般道路での開催であるので、事故防止のために、より良い円滑な運営を行う必要がある。 ・ゲーム的要素の充実等が望まれる。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（PLAN）

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可 ☐廃止 ☐休止 ☐目的再設定 ☒事業統廃合・連携 ☐事業のやり方改善（有効性改善） ☐事業のやり方改善（効率性改善） ☐事業のやり方改善（公平性改善） ☐現状維持（従来通りで特に改革改善をしない） 平成27年度からは、類似した事業と統合の上、実施予定。		(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要) <table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策																								